

環境管理会計導入に関する分析枠組みの構築と適用

- (株)島津製作所の事例を中心に -

加藤 貴義

キーワード：環境管理会計（EMA）導入分析枠組み、
導入促進要因、経時性、要因間相互関連性

背景と目的

環境管理会計（Environmental Management Accounting, EMA）は、環境保全の情報と合わせて、関連する経済情報を提供することによって企業意思決定を改善することを目的として開発された、環境経営ツールの1つである。近年、EMAの諸手法に関する研究が蓄積され、その理論上の有用性が証明されつつあるものの、さらなる普及を考える上では、理論と実務の間にあるギャップを認識し、しかるべき対策を講じる必要があると考えられる。

そこで本研究は、先行研究のサーベイを行ない、EMAの導入や展開を促進或いは阻害をする要因を明らかにする有用な分析枠組みを構築することで、EMAの一層の普及とそれに伴う環境経営・CSR経営の進展に理論的な貢献を行なうことを目的としている。また、もうひとつの目的として、この分析枠組みを(株)島津製作所におけるEMA導入事例に適用することで、実務の面においても本枠組みが有用であるということを実証する。

リサーチクエスチョン

本研究で明らかにすべき具体的なリサーチクエスチョンは、「EMA導入に対する、有用な分析枠組みとはどのようなものか」という点である。そしてその構築のために、分析枠組みに対していかに1)経時性の概念と2)総合的な導入促進要因を統合していくか、という点である。

結論

EMAに関する先行研究の整理によって、1)従来の導入事例研究では、技術面の確立に重きが置かれてきたという点と、2)近年は組織や人材、外部環境に関する要因の検討の必要性も議論されているという点を明らかにした。また、その他の管理会計システムの導入研究から、経時性の概念を取り入れることの重要性も明らかとなった。

これらの先行研究の成果及び課題を基に、前述の経時性の概念や、より総合的な導入促進要因を統合した導入分析枠組の構築を行なった(図1)。この分析枠組を(株)島津製作所のEMA導入事例に適用し、技術的な要因に加えて、タスク特性、組織、人材、外部要因等のより広範な導入促進要因についてもその影響を明らかにした。また、それぞれの要因がどの導入段階において影響を持ったか、時系列的な分析を行なうこともできた。

さらに、EMAの導入促進要因の分析結果をさらに詳細に検討することによって、個々の要因による導入の促進/阻害といった影響だけではなく、各要因がお互いにどのような相互関連性を持って導入プロセスに影響を及ぼしているかという点も明らかとなった。以上のことから、本分析枠組みはEMA導入におけるボトルネックを明示的に表すこととなり、これをもとに対策を講じることで、企業は導入促進への取り組みをより効率的に進めることができるものと予想できる。

本研究で検討したような、複合的な導入促進要因の析出や、経時性の概念を考慮した要因間の相互関連性の検証は、EMA研究の分野ではこれまでにはなく、本研究のEMAの導入研究及び実務に対する貢献は大きいものと考えられる。

要因の帰属先	促進要因	導入段階			
		準備期間	開始期間	高度化期間	展開期間
目的/タスク				
				
				
技術的要因				
				
				
人材的要因				
				
				
組織的要因				
				
				
外部環境要因				
				
				

図1 環境管理会計の導入分析枠組み